

令和 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育総合推進地域事業>

都道府県・
指定都市名

地域名

人権課題

目標・人権教育
のねらい

各組織の動き・役割等

校種間連携の
概要地域・関係機関
との連携の概要

事業成果

令和〇年度 人権教育研究推進事業 <人権教育総合推進地域事業>

都道府県・
指定都市名

〇〇県

地域名

□□市・△△中学校区

人権課題

同和問題、アイヌの人々、外国人、ハンセン病患者等

目標・人権教育
のねらい

- ・当地域では、発達段階に応じて人権に関する正しい知識を身に着けさせることに重点を置いた取組を実施する。また、互いの心情や置かれている状況を理解し合い、相手を思いやる態度の育成も図る。
- ・各学校において系統的に推進するとともに、家庭・地域が一体となり、一貫性をもって人権教育を推進することで、より深く浸透することを目指す。

各組織の動き・役割等

授業研究会→研究報告書の作成・配布

人権教育総合推進会議→指導計画の整備

人権教育総合推進会議

→小中9年間の体系的な教育について協議

〇〇県教育委員会

□□市教育委員会

各校のPTA

学校運営協議会

地域学校協働本部

福祉施設

□□市立△△中学校：指導計画に則り、人権課題■ ■について、
・ ・を通じて学習した□□市立◇◇小学校：指導計画に則り、人権課題〇〇について、
××を通じて学習した□□市立▽▽小学校：指導計画に則り、人権課題●●について、
▶▶での体験活動を通じて理解を深めた

推進地域内の各組織や、地域外の関係機関が何を行ったのか、関係性等がわかるように適宜説明文を入れながら図示すること。

校種間連携の
概要

- ・小・中学校の連携のために研修主任を中心とした学校教育部会を設置し、人権課題について小・中学校9年間の体系的な教育を見通した協議を行った。結果、小学校では〇〇について、中学校では△△について学習し、××の力を伸ばすこととした。

地域・関係機関
との連携の概要

- ・小学校、中学校、PTA、学校評議員、福祉施設及び教育委員会等で構成された人権教育総合推進会議において、9年間を見通した指導計画の整備を行った。地域の「●●●●」という声を指導計画の中に◆◆として反映した。

事業成果

- ・知識的側面：
- ・価値・態度的側面：
- ・技能的側面：

3側面ごとに設定した評価指標に基づく変容について、必ず記載すること。左記に追加して、各実施主体の判断で独自に指標を設定したり、定性的な成果を記述することは、差支えない。

【例：上記のほか、実施地域において不登校児童生徒数の減少が見られた／子供たち同士が互いの気持ちを考慮する姿勢がみられるようになった。】

令和 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

学校名

人権課題

対象学年・
取り扱った教科等目標・人権教
育のねらい

実施した内容

工夫した点

他教科との
関連

事業成果

人権課題ごとに作成するにあたり、複数の学年・複数の教科で取り扱った場合、特に注力したものを選択して作成することも可能。複数の教科等を記載することも可能。

令和〇年度 人権教育研究推進事業 <人権教育>

都道府県・指定都市名

〇〇県

学校名

◇◇市 □□中学校

人権課題

高齢者

事業実施計画書の「3. 取り組む人権課題について」で取り組むこととした人権課題ごとに本様式を作成すること。

対象学年・取り扱った教科等

中学3年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・高齢者への偏見や思い込みを取り除き、高齢者の人権を尊重し、共に生きる意識を育てる。
- ・高齢者に自分たちができることを話し合い、合意形成をはかったり、意思決定したりする取組を通じて、偏見・差別を許さない態度の育成に重点を置く。
- ・高齢者の現状や課題、高齢者を支援し擁護している機関の取組について理解を深める。
- ・高齢者に対する思いやりの心を持ち、親切にする意欲・態度を養う。

実施した内容

- ・家庭や地域での高齢者の生活の様子について話し合う。高齢者が持っている知恵や技、抱えている課題についてグループごとに詳しく調べる。(2時間)
- ・社会福祉協議会から高齢者の人権課題や取り巻く状況などについて話を聞く。高齢者の疑似体験を行い、高齢者に対する理解を深める(3時間)
- ・調べ学習や体験を通して学んだことをまとめ、交流する。自分たちにできることを考える。

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・話し合いの際に、高齢者の様子について、詳細な情報を聞かないようにするなど、個人情報の取扱いに注意する。マイナス面だけでなく、プラス面に目を向け、意見を出させる。
- (地域や関係機関との連携)
- ・地元企業や地域の長寿会、近隣大学などに参画いただき、授業を実施した。具体的には、近隣大学の教授にオンラインで高齢社会の状況について講義をしていただいた。

各学校が指導上工夫した点、及び地域や関係機関との連携に際して工夫した点を記入する。

他教科との関連

- ・社会科にて、基本的人権について学習した。その際には、総合的な学習の時間での指導内容とのつながりを意識し、総合的な学習の時間で学んだ内容を振り返らせながら社会科の指導を行った。

事業成果

- ・知識的側面：
- ・価値・態度的側面：
- ・技能的側面：

【例：上記のほか、実施地域において不登校児童生徒数の減少が見られた／子供たち同士が互いの気持ちを考え配慮する姿勢がみられるようになった。】

3側面ごとに設定した評価指標に基づく変容について、必ず記載すること。左記に追加して、各実施主体の判断で独自に指標を設定したり、定性的な成果を記述することは、差支えない。